

『未だ、医師を辞めない理由』
(副題：医師の漢方薬による保険診療は絶対必要！！)

医師という職業を遂行するにあたっての究極の問いかけは、
自分の愛する家族と同じように、
患者さんの診療を行っていますか？ ということであろう。

妻は、活水高校時代、自宅から2分も歩けばバスに乗ることができるのに、
20分近くも歩いて、国鉄・道の尾駅から汽車通学をしていた。車酔いを避けるために。
かように脆弱な母親と、小学校の通知表に（子供心にも不名誉に思った）腺病質と
書かれた私との間の、子どもであるから、強靱な体力の持ち主など生まれるわけが無く、
次女は特に脆弱で、中学3年生の時、冬の長距離走で初めて完走し、ビリでゴールすると、
教職員・生徒全員から歓声上がる始末であった。
長女も次女も、アレルギー・セットの持ち主で、
ダニ防止用の高価な寝具・掃除機・空気清浄器、暖房はオイル・ヒーターと、
居住環境を整備しても、
アレルギー性鼻炎・慢性副鼻腔炎・気管支喘息・アセトン血性嘔吐症を、繰り返していた。

治ったからと幼稚園に行かせると、また直ぐ風邪を貰って再発するので、長期に休ませる。
すると、自分の子どもも治せない医師に診せるわけにはいかないと、
陰口が聞こえて来て、妻を悔しがらせた。

最新の知見の学習に努め、最善の治療を行なっているつもりであるが、
病気から抜け出させて上げられず、自己嫌悪に陥るばかりであった。
何とか丈夫にして上げたいと、煩悶して、思いついたのが、漢方医学であった。

神奈川県小田原市に勤務時、定期監査で訪れた間中病院に、
優秀だった同級生が勤務していた。
大都会ではなく地方の病院であることを不思議に思って尋ねると、
高名な院長先生の下で、漢方医学を修得するためだということである。
民間医療まがい、時代遅れの、伝承医学だと考えていたので、驚いてしまった。

容易に感染し発熱。直ぐ嘔吐が始まり、摂食も内服もできなくなるので、毎度、点滴輸液であった。

喘息発作を改善させるために、 β 刺激性気管支拡張剤を投与すると、ドキドキすると動悸を訴え、手足が震え突っ張って、気持ちが悪いと言う。テオフィリンは嘔吐を誘発させて、よけいに苦しめてしまう。しかし、他に方法が無いので、我慢させるしかない。二人とも、母親に似て、辛抱強い子どもであった。

漢方医学の勉強をしながら、まず自分に使い、妻の多彩な不定愁訴に、娘たちにと、使ってみて、効能に自信が持てるようになったら、患者さんにも使う。こうして、少しずつ、漢方治療に習熟して来て分かったことは、自分の能力が特別に劣っていたから、娘たちをうまく治せなかったのではなく、もともと、西洋医学には、そのような能力しか無かったということであった。脆弱な体力の持ち主や、繊細な症状は、想定外であったのだ。

西洋医学で当然のように行われている治療についても、漢方医学から見ると、オカシイことだらけである。たとえば、解熱剤の投与。痛み止め、鎮吐剤、止痢剤、鎮咳剤も。これらすべて、異常な状態から脱するために身体自らが行う防禦反応を、妨害する薬剤である。身体に余力が無い場合には、これらの薬剤が、いっそう不利な状況に追い込んでしまうことは、しばしば経験する筈である。しかし、体力のある患者では、それらが目立つことが少ないので、気づかない。

妻は、ほとんどの西洋薬がダメである。胃痛や嘔気を起す。我慢して内服を続けることはできても、食欲が低下し、みるみる体力が落ちて行くのが見える。これは、虚弱な人に見られる特徴である。
(漢方治療では、服薬が原因で、軽度であっても、不快にさせることがあれば、その治療は誤っていると判断する。)

このような人は、西洋医学では解釈困難な、症状を訴える。そこで、個々の症状に対しての投薬が、更に行われる。その結果、症状はいっそう複雑となることが多い。そこで堪らず、伝家の宝刀が振り下ろされ、精神的なモノとか、自律神経失調症だとかの、診断にすり替えられる。そして、抗不安薬や抗鬱剤が投与され、迷宮状態となる。

娘たちのお蔭で、気管支喘息も、娘たちを苦しめた西洋薬は一切使用せずに、漢方薬のみで（一部、西洋薬の併用あり）、従来の治療より格段に満足のできる治療ができるようになった。妻のお蔭で、女性特有の多彩な不定愁訴についても学習することができた。

漢方薬をうまく使うことができれば、西洋薬で取り繕っていた、疾患・異常も、改善・治癒させることができるではないか！！勿論、漢方医学だけで、すべてに対応することは不可能である。西洋医学的方法でなければ対応できない疾患は多数存在する。しかし、両者を組み合わせることで、単独使用より、格段に、治療効果が上がることも分かった。

さて、私が死んだら、妻の治療は誰がしてくれるのであろうか？頑張って、一日でも長く、妻や娘たち、孫の、主治医を続けなければと、考えている。

前川秀幸（前川医院）（社団法人日本東洋医学会認定漢方専門医・日本小児科学会会員）